

（3）修正申告の審査業務 効率化



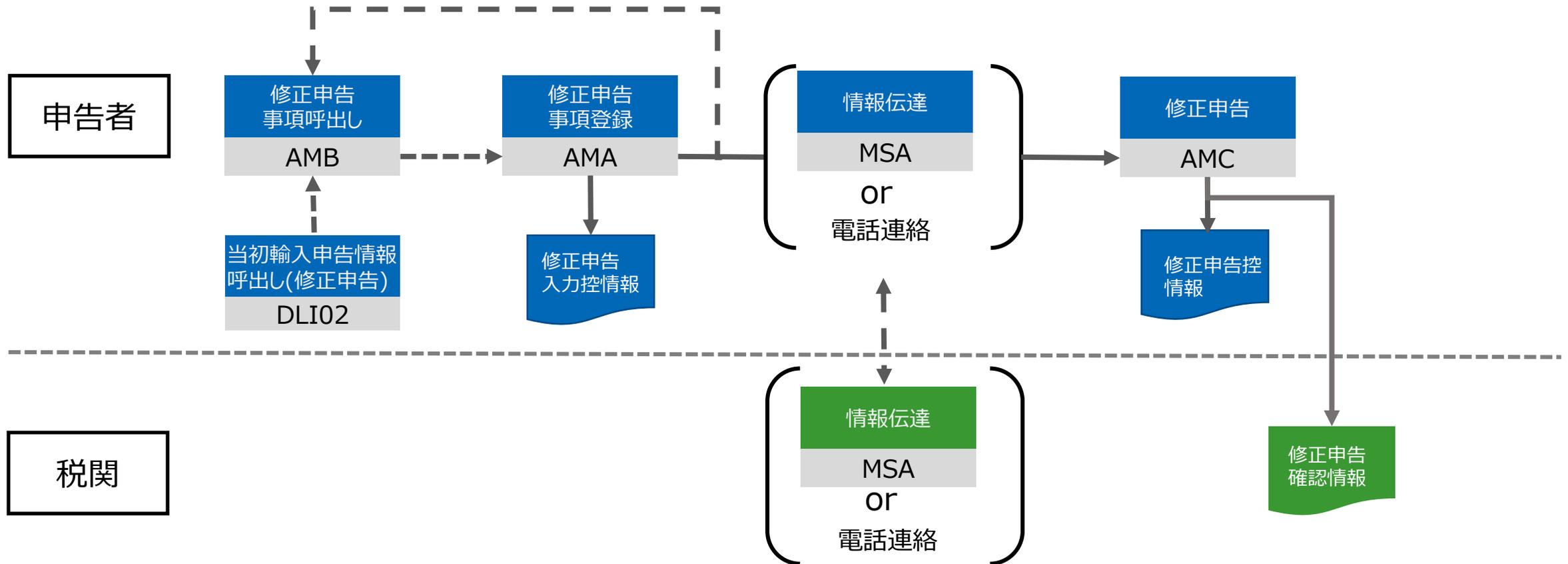
2022年12月8日

輸出入・港湾関連情報処理センター株式会社

区 分	概 要
1. 検討項目	修正申告の審査業務 効率化
2. 変更要望	修正申告に税額計算機能及び税関への事前確認の通知機能を設け、修正申告にかかる利用者の利便性向上及び税関の審査業務の効率化を図る。
3. 次期仕様	<ul style="list-style-type: none"> ① 新規の「新修正申告事項登録（ASA）」業務（仮）に税関への通知欄を設け、当該項目にチェックを入れて事項登録した場合は、税関向けに帳票を出力することで、「情報伝達（MSA）」業務等による税関への連絡を省略化する。 ② 税関による修正申告の事前確認について、確認が終了した旨を入力者に通知する業務（CES（仮））を新設し、「情報伝達（MSA）」業務等による入力者への連絡を省略化する。 ③ 新規の「新修正申告事項登録（ASA）」業務（仮）の入力は1件の当初申告毎に行う仕様とし、当初申告情報の呼出しや税額等の自動計算機能を設けて、入力作業の省力化を図る。 ④ 現行の修正申告業務（AMA、AMC等）については、現行仕様を継承し引き続き使用可能とする。

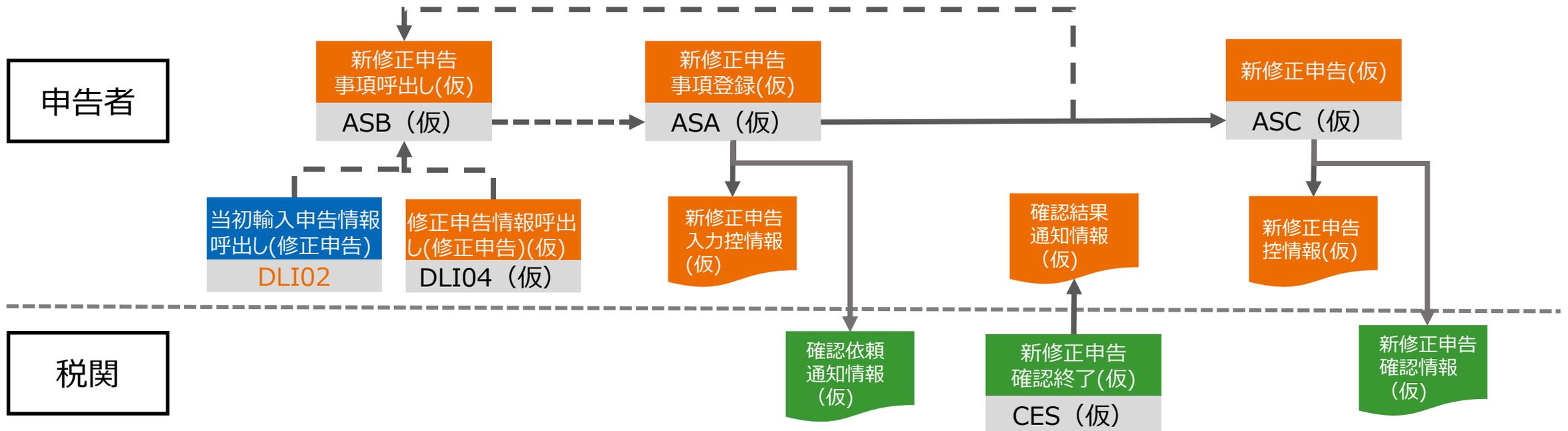
現行概要

- 修正申告を行う際、「修正申告事項登録（AMA）」業務に税額計算機能が無いため、手計算して入力する必要がある。
- 修正申告の内容について事前に税関の確認を受ける場合、「情報伝達（MSA）」業務又は電話等の手段で修正申告番号を税関に伝える必要がある（税関側の確認結果の連絡手段も同様）。



変更概要①

- 現行の修正申告業務（AMA、AMC等）は引き続き利用可能としつつ、修正申告にかかる新規業務（ASA、ASC等）を追加する。また、当初の修正申告を呼び出せる業務（DLI04（仮））及び修正申告の照会業務（IIS（仮））も追加する想定。
- 新規の「新修正申告事項登録（ASA）」業務（仮）の入力項目に税関への通知欄を設け、当該項目にチェックを入れて事項登録した場合は、税関向けに帳票を出力することで、税関への連絡を省略化する（事前確認を必要としない場合は、通知欄にチェックを入れずに「新修正申告（ASC）」業務（仮）をすることも可能。）。
- 税関側に新たに「新修正申告確認終了（CES）」業務（仮）を設け、税関が当該業務を行った場合は、申告者に帳票を出力することで、税関からの折り返しの連絡を省略化する。



変更概要②

- 現行の「修正申告事項登録（AMA）」業務では、複数の当初申告を1件の修正申告にまとめて登録を行うことが可能だが、新規の「新修正申告事項登録（ASA）」業務（仮）では、1件の当初申告毎に登録を行う仕様とする。
- 新規の「新修正申告事項登録（ASA）」業務（仮）には、「輸入申告事項登録（IDA）」業務相当の税額自動計算機能を設ける。そのため、入力項目は「輸入申告事項登録（IDA）」業務の入力項目に倣った仕様になることを想定している。

【現行業務と新規業務の特徴】

	税額計算機能	複数の当初申告を1件の修正申告にまとめて登録	税関への事前確認の連絡手段
現行の修正申告業務	無し	可能	「情報伝達（MSA）」業務又は電話連絡
新規の修正申告業務	有り	不可	税関への通知欄にチェックを入れて事項登録することで、税関向けに帳票出力（確認結果は税関から帳票出力）